

松山市 鳥獣に強い集落づくり支援モデル事業について
(平成29年度～令和元年度)

- 愛媛大学農学部と連携し、平成29年度から、農協や猟友会等の関係団体も参画する中で、集落での生息調査や対策検討会を通じ、地元住民が鳥獣対策の計画を作成し、主体的に取り組む標記事業を実施している。
- 実施地区は、近年、イノシシ被害の拡大が懸念される興居島の由良地区、泊地区、サルによるブドウ被害のある伊台実川地区、多様な鳥獣が生息し、特にイノシシの生息拡大が心配される小野今吉地区である。

実施地区	主な取組内容
興居島 由良	イノシシ生息調査・結果報告会・対策検討会の実施 (H29) 【P l a n】 モデル対策地域での共同柵の整備 (H30) 【D o】
伊台 実川	サル等野生動物 生息調査・結果報告会・対策検討会の実施 (H29) 【P l a n】 動物駆逐用花火を用いた地域ぐるみのサルの追い払い (H30・R1) 【D o】
興居島 泊	イノシシ生息調査・結果報告会・対策検討会の実施 (H30) 【P l a n】 モデル対策地域での共同柵の整備 (R1) 【D o】
小野 今吉	野生動物 生息調査・結果報告会・対策検討会の実施 (H30) 【P l a n】 イノシシの侵入から集落を守る共同柵の整備 (R1) 【D o】



H29 カメラ画像(伊台実川)



H29 調査結果報告会(由良)

- 興居島では、モデル対策地域での共同柵整備だけでなく、地元報告会等を通じ、農家等のイノシシへの危機意識や被害防止に対する意識が高まり、特に、平成30年度は、市の補助も活用し、防護柵の整備が大きく進んだ(農家共同や農協支部、中山間組織での設置も顕著)。
- また、伊台実川地区では、市で初めての取組みとなる動物駆逐用花火を用いた地域ぐるみのサルの追い払いで、平成30年度のサルによるブドウ被害が前年度より大きく減少するなど、成果を挙げている。



H30 花火による追い払い(伊台実川)



R1 モデル共同柵の整備状況を確認(泊)

○ 平成31年3月には、伊台実川地区で、JAえひめ中央東部営農支援センターの協力により、住民主体での活動状況報告会が行われ、平成30年度の花火によるサル追い払い活動の効果を確認するとともに、愛媛大学武山教授からも、今後の活動へのアドバイスなどがなされ、令和元年度の活動に活かされている。

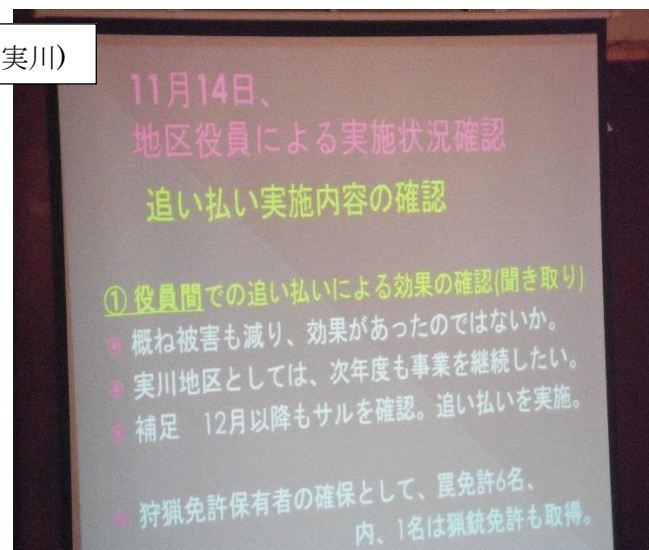
【※ 参考】伊台実川での動物駆逐用花火での追い払い活動実績

	活動回数	1回当たりの平均活動人数	使用花火総本数	1回当たりの平均使用本数
平成30年度	13回	約10人	550本	約42本
令和元年度	10回	約6人	179本	約18本

※花火は、市が開催する使用安全講習会を受講した者のみ使用可能。



H30 サル追い払い活動報告会(伊台実川)



○ 小野今吉地区では、事業を通じ、イノシシ対策への地元意識が高まっており、住民自ら、「今吉地区有害鳥獣被害対策協議会」を立ち上げ、イノシシの集落への侵入や稲等、農作物への被害を防除するため、現在、地域住民が協力し、共同柵の設置を、市の提供資材により、順次、進めている。



H30 カメラ画像(小野今吉)



R1 柵設置計画地の状況確認(小野今吉)